

社会インフラの道路を軸に

多彩な工事に携われる

”かたちに残る仕事”に、少年時代から憧れていた岡倉さん。それから十数年、その夢は現実となった。彼が選んだのは、重要な社会インフラである道路の世界。

「入社後は工事現場のマネジメントを担う施工管理を通して、かたちに残る仕事を多数手がけてきました。震災で通行止めになった、高速道路の応急処置に携わったこともあります」

若手にチャンスを与える社風の中、岡倉さんは着実にスキルを習得。何でも話せるフランクな職場の雰囲気は、新人時代の彼の成長を後押ししてくれたという。

「わからないところは、気兼ねなくどんどん聞ける環境でした。中には、私の現場まで足を運んで助けてくれた先輩もいたほどです」

現在、東京都が推進している「無電柱化計画」に基づく工事も手がける同社。良好な都市景観の創出や防災機能の強化、そして、安全で快適な歩行空間の確保などを目指す同事業は、岡倉さんも非常にやりがいがあると語る。

「電柱を地下に埋めることで、電柱の倒壊による災害の防止や、ベビーカーや車いすが移動しやすくなります。暮らしやすい環境づくりに貢献しているという実感がありますね」

しかし同時に、高い専門性が求められる仕事でもある。その1つが、舗装に使うアスファルト混合物の温度管理。160℃前後が混合に適した温度だが、気温などを考慮して微調整をする必要がある。

「発注時は、2～3℃単位で温度の指示を出さなければいけません。経験を積んだことで、今では適温がすぐわかるようになりました」

そう語りながら、胸を張る岡倉さん。この力強い言葉が、彼がプロフェッショナルであることを証明している。



岡倉清人さん

東京支店

本州統括事業部 工務部

PROFILE

2004年入社。北海道工業大学(現:北海道科学大学)工学部土木工学科卒業。高速道路や空港の工事を手がけている点に惹かれて同社に入社。入社5年目で現場代理人を、入社12年目には現場所長を任される。現在は一般道の補修工事と無電柱化工事に携わる。

工事の工程や品質、安全、原価の管理に加え、発注者である自治体との各種調整にも携わる岡倉さん。「業務は多岐にわたりますが、やりがいがあります」